

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：ひよし保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：小山田奈美	定員（利用人数）：80名 （利用者：86名）
所在地：〒212-0055 川崎市幸区南加瀬2-9-20	
TEL：044-588-3555	ホームページ：https://primekids.or.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 ぷらいむキッズ	
職員数	常勤職員： 11名 非常勤職員 19名
専門職員	園長 1名 主任 1名
	保育士 18名 幼稚園教諭 1名
	保育補助 3名 栄養士 2名
	調理師 1名 調理員 1名
	看護師 1名 用務員 1名
施設・設備の概要	保育室 6室 トイレ 4ヶ所
	調理室 1ヶ所 事務室 1室
	ホール 1ヶ所 相談室 1室
	医務室 1室 職員休憩室 1室
	園庭 有

③理念・基本方針

【理念】

「児童福祉法に基づき、より良い環境のもと、一人ひとりにたくさんの愛情を注ぎ健やかで心豊かな子どもたちを育てる。」

環境が子どもたちを育むという考えから、子どもたちの育ちにふさわしい「より良い環境」を整備しその改善に取り組みます。子どもたちは様々な家庭環境に置かれていますが、保育園では「ひとりがたくさんの愛情を受け」、子どもたちが愛されているという実感、できるという気持ち、人を信頼する気持ちの基礎を育てます。また、体をよく動かし、友達とたくさん遊ぶなかから「健やかで心豊かな」子どもを育てます。

【保育方針】

「遊びは学び」という考えにたって、年齢を問わず友達とのかかわりの場を設け嬉しいこと、楽しいこと、悲しいことや悔しいことをたくさん経験できるようにします。一人ひとりの個性を大切にしながら、長所を伸ばします。自然遊び、運動遊びを重視して、子どもを主体とした保育内容を計画し、子どもの成長を促している。

【保育目標】

「よく遊び 心も体も豊かな子」
自分に自信を持ち、大人や友達と信頼し合い、みんなで協力しながら生活や遊びが楽しめるように乳児では愛着関係を大切に保育を行い、様々なものに触れる体験や実感を大切にしています。幼児では自分の意見を伝える場や友達の意見を聞く場を設け、

共に協力し合えたり、相手や周囲のことに気がつける機会を作っています。それにより、自分で考え行動ができるようになっていたり、周囲の人やもの生きものなどに優しい気持ちを持てるように育てています。散歩や園庭でのびのびと遊び、自然などに触れ合い、体験的や主体的に学んでいくことを大切に取り組んでいます。

④施設・事業所の特徴的な取組

園は住宅街の中にありますが、園庭があり、竹馬や三輪車、縄跳びやフープなどお気に入りの道具使って体を思いっきり動かして遊ぶ姿や花びらをままごとに使用したり、梅の実を収穫しシロップ漬けにしたり、落ち葉の冠を作ったりして、園庭の木々や植物に触れ合って遊んでいます。自然から季節を感じたり、子どもたちの発見や感性の広がりを大切にしたいと自然遊びの活動を取り入れています。園庭の一角にカブトムシ小屋があったり、みかんの木にいるアゲハの幼虫を発見したり、ピオトープには金魚やメダカを育て、観察したりなど、生き物に触れることで、観察力や思いやりの気持ちなども育てています。

絵本貸し出し活動も行っており、親子で絵本に触れることで愛着関係を深めたり、感性を伸ばすことにもつながると考えて、実施しています。

毎月のクラスだより配信や限定Youtube配信を通して、保育者の思いや子どもたちの様子を丁寧に伝えることで、保護者に子どもの成長を実感していただけるように工夫しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年10月5日（契約日）～ 令和5年4月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)遊びを重視した環境や保育により健やかな子どもを育てています

理念である「健やかで心豊かな」子どもに育つよう、自然豊かな園庭と広く明るい園舎を整備しています。クライミングや田んぼのある園庭、草木の生えた裏庭も自然を感じて遊べるようになっていきます。木調の園舎も広く、各階のロビーや階段下などでも遊べる環境です。職員は方針の「遊びは学び」について学び、話し合っ理解を深めています。環境や職員により、よく遊び、心豊かな子どもへの保育につながっています。

2)絵本で子どもの興味を広げる保育を行っています

フロアごとに段差を設けたロビーや階段下、廊下の延長スペースがあり、少人数の子どもが遊べるようになっていきます。各クラスの他に各所に絵本を揃え、職員や保護者に読み聞かせをしてもらったり自分で読んだりしています。職員は絵本の活用について外部講師による研修で学んでいます。

3)保護者と園の情報共有に努めています

園では感染症対策を講じつつ、保護者に各クラスの入り口まで入ってもらい、子どもの受け渡しを行っています。乳児クラスは入り口を入り、引き渡しスペースで衣類などの準備ができるようにしています。保護者が園内に入り、子どもの様子を見つづクラスの担当と話せるように配慮しています。園だよりやきゅうしょくだより、ほけんだよりの他に、クラスごとにクラスだよりで情報提供を行っています。保護者からの情報をCSアンケートや個別面談、クラス会、保護者会議で得ています。

4)苦情や意見に対する対応や報告方法の検討が期待されます

園では保護者から意見や苦情を言いやすくして、その把握と対応に努めています。園は子どもへの保育の中で興味が広がるような学習の取組などを取り入れていますが、その状況について保護者に十分伝わっていない状況です。苦情もすぐに対応できない場合には状況を伝えるなど努めています。保護者は対応に不満を持っており、伝え方などについて課題となっています。園の理念や基本方針については保護者に十分に伝わっており、意見や苦情についても対応を考慮し、信頼につながることを期待されます。

5)園全体での情報共通の促進が期待されます

法人に属する全職員が出席する職員総会を年2回、法人の担当職員が参加する主任会議や給食会議、看護師会議を毎月開催しています。園内でも職員会議や乳児会議、幼児会議、クラス会議、給食会議で情報共有を行い、情報をICTで提供しています。職員向けの研修には非常勤も参加していますが、アプリで確認するためのパソコンや会議出席への非常勤職員への対応が不十分となっています。ICT化が進む中で、時間的制約のある非常勤職員に対する会議参加、情報提供を検討することが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受ける取り組みの中で、職員とともに保育運営や保育内容についての振り返りを行いました。職員の思いや考えを聞く機会をいただけたことにとっても感謝しています。それにより新たな改善点などを発見することができました。評価結果の指摘事項に関しては今後のより良い保育を実践する上で目標や実践計画に活かして行きたいと思えます。よりよい保育を行なって行くにはということ職員と共有し取り組んでいきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり